

## 第8回 恵那南地区中学校再編委員会 会議録

・日時 平成27年11月30日(月) 19:30～

・会場 岩村振興事務所 大会議室

・出席者 小中学校代表 春日井尚武、小板忠昭

地域自治区代表 山本純、西尾公男、黄地尚幸、堀真人、安藤良一

川上貞夫、大島将官

中学校PTA代表 近藤祐司、伊藤昌治、松下雅昭、成瀬浩司

小学校PTA代表 小川道義、加藤信之、渡邊大剛、川上渡、高井良三

こども園保護者会代表 伊藤寛隆、川上翔

恵那南地区中学校あり方検討委員会委員 鈴木峰夫、中垣貞好

総合計画審議会代表 西村貢

振興事務所長 西尾茂文、後藤光男、勝川甲子、三宅勝彦、熊谷浩

教育委員会 大畑雅幸

事務局 門野幸次郎、岡田庄二、土屋育代、安藤一博、西尾克子、梅村浩三

石田祐一、山田耕司、度會将仁

・欠席者 こども園代表 千藤まゆみ

地域自治区代表 原田知典、阿部道長、安藤仁志、

地域自治区会長会議代表 樹神和昭

中学校PTA代表 横光基

こども園保護者会代表 森井清、小木曾耕司、成瀬一、堀雄二

行財政改革審議会代表 柘植麻美

・委員会内容

1. 開会挨拶 委員長、教育長

2. 議事

委員長 : それでは、議事に入ります。

(1) 学校統合の場所について

事務局より資料に基づき説明

事務局 : 本日のグループ討議は、以前の委員会で配布した資料に基づき、1. 既存校を利用する場合の通学距離・時間の結果について、2. 通学距離・時間について、3. 通学方法についてグループ討議していただきたい。

グループ討議

委員長：時間になりましたので、グループ討議を終了します。次回は4番、5番について議論していただき、1から5まで議論した後に各地域から発表をお願いします。最後に西村先生に講評をお願いします。

西村委員：中学校の再編で議論となっている通学時間の面で1時間以内に通学させるためには、スクールバスが13台必要になるという趣旨だと理解している。総合計画の「選択と集中」がなぜ必要なのか理解していただきたい。財政破綻をした夕張市は、財政再生の指導が入り、5校の中学校を1校、小学校も1校に統合された。通学などに係る経費は最小限である。ここで議論しているスクールバスを13台準備するようなことは、財政再生のプログラムでは認められないし、スクールバス13台は絵に描いた餅になる。財政再生には18年から20年かかるため財政破綻を避ける必要がある。財政破綻にならないためには問題を立て直す必要があり、それが「選択と集中」となる。財政規模は比率で計算され、人口が減少すると比率が上がる。その中で財政運営をせざるを得ない状況になっている。出来るだけそういう事を回避するために「選択と集中」という言葉を使っている。言い換えれば、現在の状況を今後10年継続するためには、節度ある財政支払に抑制しなければならない。複数校、なおかつ新設2校は絵に描いた餅である。新設校という気持ちもわかるが、新設校にして借金を増やすとスクールバスを13台準備することはできない。適切な規模での改修などの議論もしなければいけない。新設であれば市全体の予算を削ることになる。通常の行政サービスの負担を増やすか、使用料等を増やすか、支給されている額を減らすことになる。それは望ましいことではない。小学校を残すことが、地域にとっては意味があるのではないか。そのためにお金を使いたい。そういうことから中学校は、統合の方向で議論していただきたいと思う。

事務局：次回は残りの2項目の議論と各地域での方向性をまとめていただきたい。第9回もグループ討議を行い、第10回は全体で議論をしていただきます。

次回の開催は12月21日に開催しますのでよろしくお願いします。

副委員長：総合計画の面からの話があり、次回4、5番の項目について議論され、答申への方向性を出していきたいと思いますのでよろしくお願いします。これにて会議を終了します。

21：08 終了